

「2019年オルビスくまもと未来基金」助成金評価委員会 審査結果

平成30年 12月3日(月)開催

《応募状況について》

▼応募数:16団体

ママと子ども支援:5団体 子育てママ支援・就労支援:1団体

子ども支援:2件 地域コミュニティ支援:6団体 心のケア:2団体

▼応募団体:NPO 法人1、一般社団法人1、任意団体14、

▼助成金採択経験あり:12団体

▼活動場所:熊本県内1、熊本市内6、益城町5、南阿蘇村1、植木町1、長洲町1、嘉島町1

《評価委員会での意見から》

(企画内容について)

- ・熊本地震の復興支援を活動内容としている団体が多いが、地震から3年経った今、**本当に必要とされている内容か**どうか、精査する必要がある。(復興支援以外にも、見落とされている部分があるのではないか。)
- ・子育てに関する活動において、「ママが大変だからサポートしたい」という内容も多いようだが、子育てに積極的なパパも多く聞かれる現代で、**男性側へのサポートや支援をする内容・活動**があってもよいのではないか？(基金の次のステップとして)
- ・今回応募の内容を見ると、物事の極端にネガティブな情報に注目して、活動の理由として挙げられているが、それが社会全般の実情に即したもののなのか疑問。

(予算について)

- ・助成金や他の資金との収支バランス
助成金頼みの事業 多様な資金バランスを考える必要がある。 など
- ・**予算の数字からも事業内容が見えてくる申請であってほしい。**状況は理解できるが、自己資金や自主事業など資金をうまく適用させた予算計画を立ててほしい。

(全体を通して)

- ・熊本地震後活動を始めた団体が多い。活動初めて来年で3年。
「やりたい事業」ではなく、必要とされる事業・現場のニーズをしっかりと絶えた計画であってほしい。
- ・評価委員からは、「復興支援活動から、一歩踏み出しネットワークやコミュニティ支援など行う実践的活動を望む」という意見が出された。評価委員専門家の立場から見れば「ビジネスのチャンスがる活動がいくつもある。持続可能な活動のためにも、連携を活かして、活動をしてほしい」今後各分野の専門家(運営・広報・会計)と団体サポートを行っていく。
- ・昨年度の評価委員会での意見「助成金募集の際、説明会を開催し、助成金のポイントや企画作りワークショップなどに参加して企画や予算を相談できる仕組みを作ると、申請書の企画力が向上するのではないか」を受けて、県内5カ所で「助成金企画書作成セミナー」を実施。参加団体20団体で、そのうち10団体申請(7団体採択)